

北大生物の会・東京

第39回談話会のご案内

下記の日程で「北大生物の会・東京」談話会を開催致します。
会員の皆様、会員以外のご参加いただけます。
皆様お誘い合わせの上、是非ご参加ください。

本会は、北大で生物学系の分野を学んだ卒業生たち（主として農学部、理学部、水産学部・卒）が、広範囲な分野のテーマについて、互いに啓蒙しつつ交友を深めるために、同士を募り、1995年に発起されました。毎年春と秋に談話会を開催しています。

今回は荒井 一利 先生をお招きしてお話を伺います。先生は鴨川シーワールドにおいて館長として水族館の運営に携わっておられます。また日本動物園水族館協会（JAZA）会長としての要職にもあり、最近ではイルカの捕獲・繁殖のことでメディアで紹介される機会も増えています。今回は「水族館の哺乳類」というタイトルでお話を頂きます。水族館といえば魚類が主体ですが、今回は水中および水域に生息する哺乳類についてのお話で、飼育のことなどを含めた様々な知見について貴重なお話が伺えるものと楽しみにしております。

日時	2015年6月20日（土曜日）14時～15時30分	
場所	東京医科歯科大学・食堂棟1階レストラン「あるめいだ」	Tel: 03-3811-9607
	*地図は2ページをご覧ください	
	〒113-8510 東京都文京区湯島 1-5-45	
	【アクセス】JR 御茶ノ水駅、東京メトロ丸ノ内線 御茶ノ水駅、 東京メトロ千代田線 新御茶ノ水駅	
談話会講師	荒井 一利先生（鴨川シーワールド・館長）	
演題	「水族館の哺乳類」	
	*講演要旨および演者略歴は3ページ以降をご覧ください	
会費	無料	
ご連絡先	庶務幹事：祖父尼俊雄（院理・修（動物）S38 修了）	
	E-mail: toshi_sofu@jen-knt.jp	

*談話会講演の後に連絡・報告を兼ねた定期総会があり、16時30分より18時まで講師の先生と直接お話し出来る場として懇親会を行います（会費：5000円、会場は同じ「あるめいだ」です）。懇親会への参加をご希望の方は、メールにて事前にご連絡くださいますようお願い致します。

ご不明な点がございましたらご連絡ください。皆様のご参加をお待ちしています。

<次ページにつづく>

これまで過去3年間（6回）の談話会では、下記のような内容で講演をいただきました。

- 第33回談話会 「血液疾患と染色体異常」 講師：岡田 美智子 氏（2012. 6. 17）
- 第34回談話会 「経済成長と海洋環境： 世界一幸福な国フィジーを例にして」 講師：村井 武四 氏（2012. 10. 14）
- 第35回談話会 「携帯電話のマイクロ波は有害か無害か？」 講師：田中良晴 氏（2013. 6. 16）
- 第36回談話会 「人・動物・自然（地球環境）を大切にするヒューマン・アニマル・ネイチャー・ボンドのサイエンス」 講師：加藤 元 氏（2013. 10. 13）
- 第37回談話会 「蓑亀の秘密」 講師：宮地 和幸 氏（2014. 6. 15）
- 第38回談話会 「動物園と野生生物の保全」 講師：田畑 直樹 氏（2014. 11. 1）

次回以降の談話会につきましてもご案内させていただきます。



レストラン「あるめいだ」地図

<講演要旨および演者略歴は3ページ以降をご覧ください>

水族館の哺乳類

荒井 一利 (鴨川シーワールド 館長)

水族館に課せられた社会的機能や役割は、①リクリエーション ②教育 ③種の保存 ④調査研究といわれている。この4つの項目のバランスはそれぞれの園館によりさまざまであるが、水族館は、水生生物の飼育・展示を通じて、この4つの項目をおこなう施設である。日本には、約100の水族館があるといわれており、このうち、67館が(公社)日本動物園水族館協会に加盟している(2015年5月1日現在)。

水生動物は無脊椎動物から哺乳類まで多岐にわたり、日本の水族館で飼育された総種類数は約5,000種といわれている。水域に生息する哺乳類は、水生哺乳類や海獣類と呼ばれ、一生を海洋や河川で暮らす鯨類と海牛類、生活史の一部の期間を陸地や氷上で過ごす鰭脚類の3つの分類群が含まれる。この他に、ホッキョクグマやカワウソ、ラッコも水族館で見られる哺乳類であり、近年では、ネズミの仲間のカピパラも一部の水族館で展示されているが、多くの水族館で一般的に飼育されているのは、鯨類と鰭脚類である。

鯨類は鯨目(鯨偶蹄目)に属する種の総称であり、大型で口腔内にクジラヒゲを有するヒゲクジラ亜目とイルカ類や大型種まで多様性に富んだ大小さまざまな種を含み、口腔内に歯を有するハクジラ亜目の2亜目に分かれ、近年絶滅したと考えられているヨウスコウカワイルカを含め、ヒゲクジラ亜目4科6属14種、ハクジラ亜目10科34属72種に分類される。世界では、これまでに12科51種、日本では8科30種が飼育されている。鰭脚類は最新の分類体系では、食肉目の中の一群であり、近年絶滅したと考えられているカリブカイモンクアザラシとニホンアシカを含め、3科21属36種で構成され、これまでに世界では35種、日本では20種が飼育されている。

海獣類の飼育は、①収集 ②選別 ③蓄養 ④環境整備 ⑤輸送 ⑥馴致 ⑦保健医療 ⑧育成 ⑨繁殖 ⑩寿命 の10項目に分類される。すなわち飼育とは、①動物を収集し、②希望する年齢と性別の個体を選別し、③蓄養を開始し、その間に、④収容施設の環境整備と搬入準備をし、⑤輸送して施設に搬入し、⑥馴致をして、⑦保健に留意し、病気になった場合は医療にゆだね、⑧健全に育成して性成熟に達した後は、⑨順調に繁殖をさせて子孫を残し、⑩寿命を全うするまで長期飼育をすることである。

水族館で人気のある哺乳類はイルカ類を主体とした鯨類であり、特に大型のシャチに対する関心は高い。世界では8ヶ国13園館で60頭ほどが飼育されているが、日本では2館で7頭が飼育されているにすぎない。世界中に分布し、オスの最大個体は体長10mほどになるといわれ、小さな魚

類やイカ類からアザラシ・トド・イルカなどの哺乳類、地球上で最大のシロナガスクジラまで幅広く捕食し、海洋食物連鎖の頂点に位置することより「海の王者」と呼ばれている。白黒ツートンカラーの巨体とどう猛なイメージから「シャチ」という種名は多くの人に知られているが、実際に目にするのは少なく、その知名度にくらべ、その実体は謎に包まれている部分が多い。

1970年代に始まったアメリカのワシントン州やカナダのブリティッシュ・コロンビア州沿岸での長年にわたる目視調査により、生態、社会構成、音声特性などが明らかになってきた。また、近年では、南極周辺に生息する個体群に関する調査や遺伝学的解析も進み、世界には、形態、生態、食性、分布が異なる少なくとも10のエコタイプ（生態型）が存在していることが明らかになり、これらの独立したエコタイプの情報が集合して、シャチの全体像がえがかれてきたことがわかった。これらのエコタイプ間で遺伝的な交流はなく、今後の研究により、いくつかの亜種または、独立種に分けられる可能性が示唆されている。

1961年にアメリカの水族館で初めて飼育が行われ、1965年より長期飼育が可能になり、1985年に飼育下での繁殖に成功した。日本では、鴨川シーワールドのオープンに際し、アメリカから2頭が搬入され飼育が始まり、1998年に繁殖に成功した。これまでに主として繁殖、成長、生理、行動など、野生の調査では不明な点の多い分野について、水族館における飼育を通して明らかになったことも多く、野生と飼育下の両面からの研究により、生物の謎を解明していくアプローチがなされたよい事例である。飼育下での研究は、飼育展示環境の改善と飼育展示技術の向上には不可欠であり、とりわけ、それらの集大成として成立する繁殖の成功は、それ自体が生物学上の成果であり、得られた知見は野生生物の保全にも応用可能である。

【講師略歴】 荒井 一利 （あらい かずとし）

1955年 東京都に生まれる

1979年 北海道大学水産学部増殖学科卒業

現 在 鴨川シーワールド 館長

（公社）日本動物園水族館協会 会長

以上